

(巻頭言)

お客様の「つくる」に寄り添う KOBELCO の機械装置特集の発刊にあたって

猿丸正悟

執行役員 機械事業部門長

On the Publication of a Special Feature... KOBELCO Machinery – Stay Close to Customers' Value Creation

Shogo SARUMARU



当社の機械事業は、1915年に往復動圧縮機の製造に端を発して以来、既に110年の歴史を有している。この長い歴史の中で、常にお客様の多様な「つくる」という本質的な課題に寄り添い、独自の機械装置を通してお客様に価値ある解決策を提供してきた。今日まで、このことによりお客様の信頼を獲得し、産業や社会のインフラを支え、人々のより良い日常の実現に貢献してきたと自負している。

当社は、2024年に「稼ぐ力の強化」と「成長追求」と「カーボンニュートラルへの挑戦」の二つを最重要課題として掲げたKOBELCOグループ中期経営計画（2024～2026年度）を公表した。そのなかでこれからの事業戦略を示すと同時に、「KOBELCO-X」と称するAXからGXの7つの変革を設定し、「魅力ある企業への変革」に取り組んでいくことを示した。なかでもAX（AmbideXterity：両利きの経営）とGX（Green Transformation：グリーン・トランスフォーメーション）の二つを事業戦略推進の両輪と定め、全員参加で戦略実行と変革に挑戦することとしている。

その中期経営計画では機械系事業を、「外部環境変化をビジネスチャンスとし、成長を追求する事業」と位置付けている。現在、「新たな需要の捕捉」と「事業の幅の拡大」による成長を目指し、エネルギー転換などの新たなビジネスチャンスの獲得やコト売り・ソリューションビジネスへの事業展開に加えて、保有する資産を最大限活用した新規事業の創出に取り組んでいる。

その戦略実行にあたってのよりどころとすべく、当社機械事業の存在意義をしめすパーパスを、『お客様の「つくる」に寄り添う、他にはない機械装置をとおして、より良い日常を確かなものに。』と定めた。また、2030年の目指す姿を示すアンビションを『個の力の連鎖で「当たり前」から一歩踏み出し、お客様の真のパートナーとなり、セグメントトップを創出し続けるグローバル集団を目指す。』とした。当社機械事業部門は、これまでの事業活動の歴史とこれから目指すべき姿を踏まえて再定義したこのパーパス、アンビションのもと、日々の事業戦略の実行と変革の推進に取り組んでいる。

このような背景のもと、今回の特集では、『お客様の「つくる」に寄り添う KOBELCO の機械装置』と題して、お客様の「より良い製品をつくる」、「より良い環境をつ

くる」、「新しい価値をつくる」の三つの「つくる」に寄り添った当社の機械装置とその技術や取り組みを紹介する。

まず、「より良い製品をつくる」ために取り組んだ事例として、長年にわたりお客様とともに社会課題の解決に向けて歩んできたスクリュやターボなどの各種圧縮機、樹脂およびゴムの混練機、製鉄機械や圧延機と、それらを支える技術を紹介する。これらの機械装置は、お客様の製品製造プロセスを支え、品質向上と効率化に寄与することで、お客様が直面する課題を解決し、お客様の製品の競争力を高める重要な要素となっている。

つぎに、「より良い環境をつくる」という課題を解決するための施策として、カーボンニュートラルや水素社会の実現に向けた取り組みを紹介する。ボイラーや工業炉での利用を想定したハイブリッド型水素ガス供給システム、新たな水電解水素ガス製造装置、水素利用用途で用いられる気化器・熱交換器、様々な環境用途で用いられる圧縮機やヒートポンプに関する記事を掲載した。これらの技術は、お客様とともに持続可能な社会の実現に向けて重要な役割を果たしている。

最後に、「新しい価値をつくる」へ向けた取り組みとして、全個体電池の製造プロセスへの適用を目指したWIP（温間静水圧プレス）装置や、新型PVD（物理蒸着）装置による平滑性に優れた硬質皮膜の開発と応用事例、船舶での活用を想定した低速大推力の直動電動機などを紹介する。また、新しい価値の創造に向けたボトムアップ型の新事業創出活動についても解説する。これらの取り組みは、より幅広いお客様にこれまでにない新しい価値を提供し、ともに未来を切り拓くことを目指している。

当社の機械事業は、これらの製品、技術とソリューションを通じて、お客様のさまざまな「つくる」に寄り添い、ともに成長していくことを目指してきた。当社のエンジニアや研究者たちは日々、新しい技術と製品の開発に取り組み、お客様のニーズに応えるべく努力を重ねている。これからも、当社はお客様との対話を大切にし、人々のより良い日常の実現に貢献することを通じ、パートナーとしての役割を果たしていく所存である。

今後とも、皆様のご支援とご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。